

菅田中学校だより

第4号 令和8年(2026) 7月
横浜市立菅田中学校

「互いを認め合い、夢をつくる」 <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/jhs/sugeta/>

友情の芽に あいさつという まほうの雨を

学びの大切さ

校長 山口 毅

6月21日(日)から23日(火)までの3日間、3年生は九州(長崎)修学旅行を実施しました。

本校の修学旅行は、単なる思い出づくりにとどまるものではありません。事前・事後の学習を通して見聞を広げ、自ら問いを見だし、学びを深めていくことを目的とした、大切な教育活動です。主体的に考え、仲間と協働しながら互いの考えを伝え合う力を育む機会として、この三日間は大変価値ある時間となりました。

一日目は長崎の地に立ち、平和公園と長崎原爆資料館を訪問しました。平和公園では、生徒代表による「菅田中学校平和宣言」がなされ、全員で黙とうを捧げました。祈りの空間に身を置き、歴史の重みに触れる中で、平和の尊さについて深く考えることができました。知識として学んできた出来事が、現実のものとして心に迫り、より確かな理解へとつながっていく貴重な体験となりました。

二日目は長崎市内での班別自主行動を行いました。グラバー園、大浦天主堂、出島、稲佐山など、各班で計画したコースを巡りました。チェックポイントである眼鏡橋では班ごとに写真撮影を行い、無事にホテルへ戻ることができました。現地の人々とのふれあいや自らの判断で行動する経験を通して、これまで学んできた歴史や文化が生きた学びとして心に刻まれたことと思います。

最終日は、世界文化遺産である軍艦島(端島)に上陸しました。炭鉱の歴史や島の発展、そこに生きた人々の暮らしについて学びました。厳しい環境の中で懸命に生きた人々の姿は、私たちに多くのことを語りかけてくれました。その後、長崎スタジアムシティで昼食をとり、飛行機で帰路につきました。

今回の平和学習で、特に生徒たちの心に強く残ったのは、原爆資料館での被爆体験講話と資料映像だと思います。私が聞いた「悲しみが限りない」という言葉は、単なる悲しみを超え、過去と現在が同時に破壊され、支えを失った人間の深い苦悩を表しているように感じられます。

この言葉に触れたとき、私たちは「生きること」とは何かを真剣に考えなくてはなりません。

今回の修学旅行では、歴史から学ぶことに加え、仲間と寝食を共にする中での学びも大きなものでした。時には意見の違いやすれ違いもあったことでしょう。しかし、その中で相手を思いやり、受け止め、よりよい関係を築こうとする姿が見られました。人は時に人を傷つける存在でもあります。

だからこそ、学ぶことを通して自らを見つめ、他者への理解を深め、よりよい生き方を選び取る力を身につけてほしいと願っています。

学ぶとは、知識を得ることだけではありません。人の言葉から学び、体験から学び、自分の感情や仲間との関係から学ぶことです。その一つ一つの積み重ねが、人としての成長につながります。今回の経験を通して、生徒一人ひとりが「学び続ける人」であってほしいと強く願っています。

この旅で得た学びや気づきを、自分の言葉で家族や周囲の人に伝え、今後の学校生活へと生かしていくことを期待しています。本修学旅行が、生徒一人ひとりの成長を支えるとともに、かけがえのない中学校生活の一頁となったことを確信しています。